

## 終章

駒沢女子大学は平成24年度で開学20周年を迎える。1学部2学科からの出発であったが、現在は2学部6学科1研究科2専攻という体制にまで発展した。こうした組織的拡大の過程の中で、さまざまな教育的な課題が表面化してきており、そのための教育内容・方法の改善、学内組織の整備等がはかられてきたのであった。

こうした教育組織としての展開の過程の中で、平成17年度に大学基準協会による認証評価を受け、評価委員からの助言にもとづく教養科目の充実や施設・設備の充実など、さまざまな改善をなすことができたことは大きなプラスであったといえよう。しかし前回の認証評価を受けた時期から7年を経ようとしているが、その間に本学を取り巻く状況は大きく変化した。とりわけ昨今の経済情勢がもたらす就職率の低下、あるいは少子化による18歳人口の低下の問題は、大学の基盤を揺るがす大きな問題となっている。こうした中、2005年の中央教育審議会答申では「大学の機能別分化」が問題とされ、7つの大学の機能（①世界的研究・教育拠点、②高度専門職業人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、等）が提示され、大学自らがふさわしい機能を選択していくことが求められている。

本学はこうした状況をふまえ、まずは学内の教職員が高等教育機関としての本学の役割、そしてディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを改めて確認しつつ、どのような人材を育成し、そのためにどのような方針をもって教育していくのかを明確に意識しつつ学生に向き合っていかなければならない。

本学は平成25年度に人文学部を改組し、現在の5学科体制から6学科体制となる。平成25年度の新カリキュラムでは、キャリア教育や教養教育の充実がはかれるとともに、本学のアイデンティティーを学ぶ「駒沢女子大学入門」などの新科目も設置される。これらの方策をより有効に運用し、幅広い教養を身につけさせ、実社会に対応できる能力を育成させることが重要な課題である。

今、各部門の点検評価の作業を終えて、改めて本学が取り組むべき課題が明らかになったと思われるが、第三者からの視点から本学の教育内容について細部にわたる検証を行うことで新たな問題点も浮き彫りにされることであろう。今後も駒沢女子大学が女子高等教育機関として、より充実した教育を展開していく上で有益なご意見をいただけることを期待し、結びの言葉としたい。

平成24年3月15日

駒沢女子大学点検評価改善委員会